

環境活動報告書

令和4年度まとめ



株式会社アイザック 環境事業本部

変わらない信念と共に、変わり続ける企業として

「必ずやり遂げる覚悟」

「今この時代に本当に期待されているもの、そしてこの先の次代においても

変わらず必要とされるものを皆の創意工夫で追求していく」

私たちアイザックグループは、創業から受け継ぐ変わらない信念と共に、

創造的な技術を磨いて変わり続ける意欲を持ち、地域社会の発展に貢献してまいります。



Top Message



代表取締役社長

石崎 大善

新型コロナウイルスの出現から3年が経過し、脱マスクや感染症法上の5類移行など『ウィズコロナ』が始まっています。一方、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化の様相を示し、様々なコスト高とともに、日々複雑化した社会課題は先行きの不透明感を助長しています。このような時代の中でも、社会環境の変化に柔軟に対応し前に進んでいかななくてはなりません。

アイザックは創業以来「世の中に必要とされているモノは何か」「社会に必要とされる企業であり続ける」ことをテーマとして今年で創業70周年という時節を迎えます。社会的に「脱炭素社会（カーボンニュートラル）」「循環型経済（サーキュラーエコノミー）」への環境意識が高まっていく中で、環境事業本部でもこれらのneedsに応える事業展開にchallengeし続けていく所存です。

また、世界的な取り組みであるSDGsへの意識も高まっている中で、アイザックグループにおいても昨年5月にSDGs宣言しました。現在のところ日ごろの事業活動がSDGsのターゲットに直線的に合致している事象に対しての取り組みとなっておりますが、今後副次的な広がりを持った取り組みへと深化させていきます。

アイザック環境事業本部は、社会環境の変化に対応できるしなやかさと強靭さを兼ね備えた企業であることを目指し、多様なステークホルダーの皆様とともに社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

「社会に必要とされる企業であり続ける」

1. 基本に立ち返り、安心安全を最優先とする企業となる
2. SDGsの推進により、サステナブルな社会を構築できる企業となる
3. 社員をはじめとして事業本部全体のWell-Being向上を目指す
4. 社会・環境の変化に対応できるレジリエントな企業となる

令和5年度 安全衛生スローガン

「危険を共有 全員参加の 安全職場」

1. 労働災害を削減、ゼロ災を目指す
2. 社有車による交通事故をゼロにする（フォークリフト含む）
3. 安全衛生意識の向上

令和5年度 環境事業本部 環境方針

株式会社アイザック環境事業本部は産業廃棄物及び一般廃棄物の適正な中間処理
とリサイクル及び環境計量に係わる事業活動で環境負荷の低減に努め、
継続的な環境貢献活動を推進する

1. 廃棄物の中間処理及び収集運搬（積替え保管も含む）を安全かつ適正に行い、
環境負荷の低減及び資源リサイクルを推進する
2. 効率の良い熱エネルギーの創出とクリーンエネルギーによる温室効果ガス排出量の
継続的削減に貢献する
3. 処理技術開発及び処理方法の改善、並びに省資源・省エネルギー化に対して継続的に
取り組み、環境パフォーマンスの向上を図る
4. 環境計量事業活動を推進することにより環境負荷を低減する
5. 地域コミュニティに対する環境配慮と継続的調和を図る
6. 環境関連法規制やその他の要求事項を遵守し、環境保全に努める
7. 環境目的及び目標の設定と実行、並びに環境教育の充実を通して、環境活動に対する
従業員意識の共有化と継続的改善を図る
8. 本方針は、社外からの求めに応じ公開する

1. 循環型社会形成への貢献



環境事業本部では、これまでの経験と知識を活かし、目の前にあるモノの価値を創造し、資源の循環利用を促進しています。今後も、単純に資源循環するだけでなく、原料、生産及び消費の様々な角度で、メーカー、小売、回収、製造、リサイクル業者など幅広い業種の方と連携し、資源循環の輪を広げ、『経済の発展・成長』に関われる企業を目指します。

右記イメージ図 参照 >

1) 貴金属回収

- 乾式精錬（金銀滓・有価スラッジ）に関しては『新規顧客拡大』と『既存顧客のシェア拡大』に取り組んでいます。
- 湿式精錬は、一昨年度導入した自社加工設備の『電解設備』・『イオン交換樹脂設備』を活用し、廃棄物中の有価物を探求・抽出しています。

< 廃棄物のリサイクル >

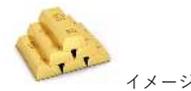
< 2022年度 有価物取引全体の回収貴金属 >

	商品 タンク	汚泥	金属類	燃え殻 ・ 煤塵	年間合計
2019年	2,308	96	2,849	480	5,733
2020年	2,334	584	2,589	635	6,142
2021年	3,084	406	3,396	594	7,480
2022年	2,340	175	3,141	569	6,225

	回収量
Au	24.48kg
Ag	1.87t
Cu	380.7t
Pd	28.84kg
Pt	153.2g



※2019.4~2023.3 (t)



イメージ



商品タンク写真

2) 化学薬品のリサイクル

1) 商品タンク

廃液を混合調製し再資源化しております。廃水処理薬品や工業薬品として再利用して頂けるお客様に販売しております。

2) 廃棄物の資材転用

R4年度における環境事業本部での廃棄物の資材転用量は、2,933.6 t (R3年度3,649.4 t) となりました。廃棄物の入荷量が減少した影響により資材転用量は昨年比から減少とはなりませんが、全資材使用量に対する廃棄物を資材転用した割合を示す資材転用率は73.6% (R3年度) から74.3% (R4年度) に向上しました。今後も継続して廃棄物を資材化する活動に取り組み、特に資材転用できる廃棄物の種類を増やす活動を強化していきます。

3) 脱炭素への取組み (メタン発酵 & RPF & 電力)

①メタンガス

メタンガス供給量 (TGFR)
205,019m³ (2022.5~2023.4)



②固形燃料化販売量

RPF販売数量 (エコ・マインド)
10,828.2 t (2022.4~2023.3)



③電力

廃棄物発電量 (環境事業本部)
15,855MWh (2022.5~2023.4)
廃棄物発電電力売電量
5,300MWh (2022.5~2023.4)

④社有車の燃費・EV化・エコドライブ意識向上

燃費管理 (環境事業本部)

ハイブリッド車・電気自動車の導入、EV用急速充電器をエネルギーセンターに設置 (R3年度)
ハイブリッドデジタルシステム「DTG7」の導入 (アイザック・トランスポート)

< 社有車の燃費 >

	目標	実績 (累計燃費)	監視台数
ハイブリッド車	20 k m / l 以上	21.39 k m / l	5台
一般ガソリン車	16 k m / l 以上	16.42 k m / l	45台
バン・ワゴン車	11 k m / l 以上	13.29 k m / l	14台

※2022.6~2023.5

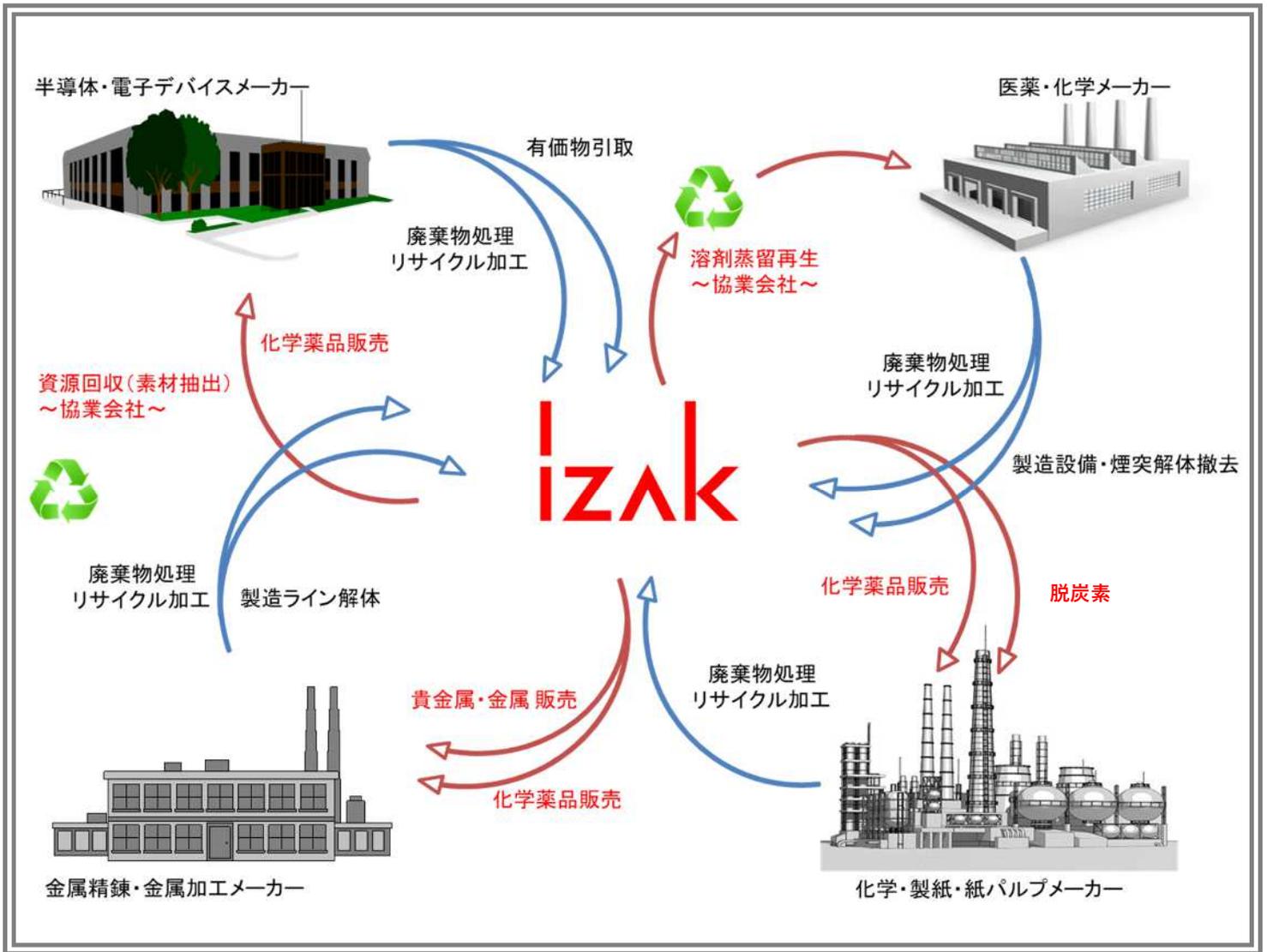
RPF使用による環境負荷低減効果 RPFのCO₂削減効果

RPFは、石炭(例. 輸入一般炭)に対して燃焼時に同一熱量回収を行う過程で、石炭よりも約33%のCO₂排出量低減効果のある高品位の燃料です。RPFを石炭代替燃料として使用することは、CO₂排出の低減と枯渇性資源の節減、埋立て処分場の延命などの相乗効果も含めると、地球環境にとっても親和的な施策です。

(日本RPF工業会HPより引用)

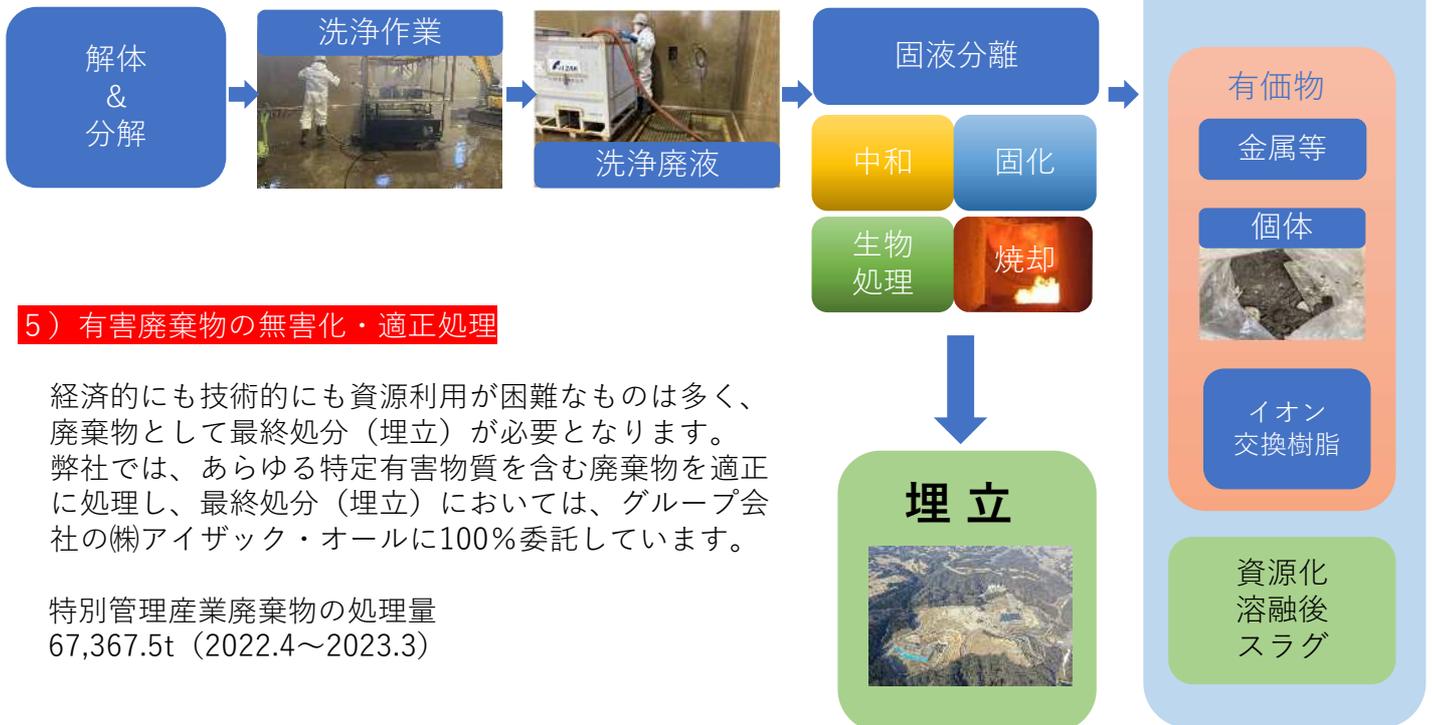


予防安全システム「DTG7」



4) 製造ラインの更新・撤去の際の特殊解体事業

貴金属精錬会社と協業し、製造ラインの解体工事における貴金属回収を実施。多彩な廃棄物処理施設及び自社加工設備を活用しています。



5) 有害廃棄物の無害化・適正処理

経済的にも技術的にも資源利用が困難なものは多く、廃棄物として最終処分（埋立）が必要となります。弊社では、あらゆる特定有害物質を含む廃棄物を適正に処理し、最終処分（埋立）においては、グループ会社の(株)アイザック・オールに100%委託しています。

特別管理産業廃棄物の処理量
67,367.5t (2022.4~2023.3)

2. CO2 排出抑制、新エネルギー創出

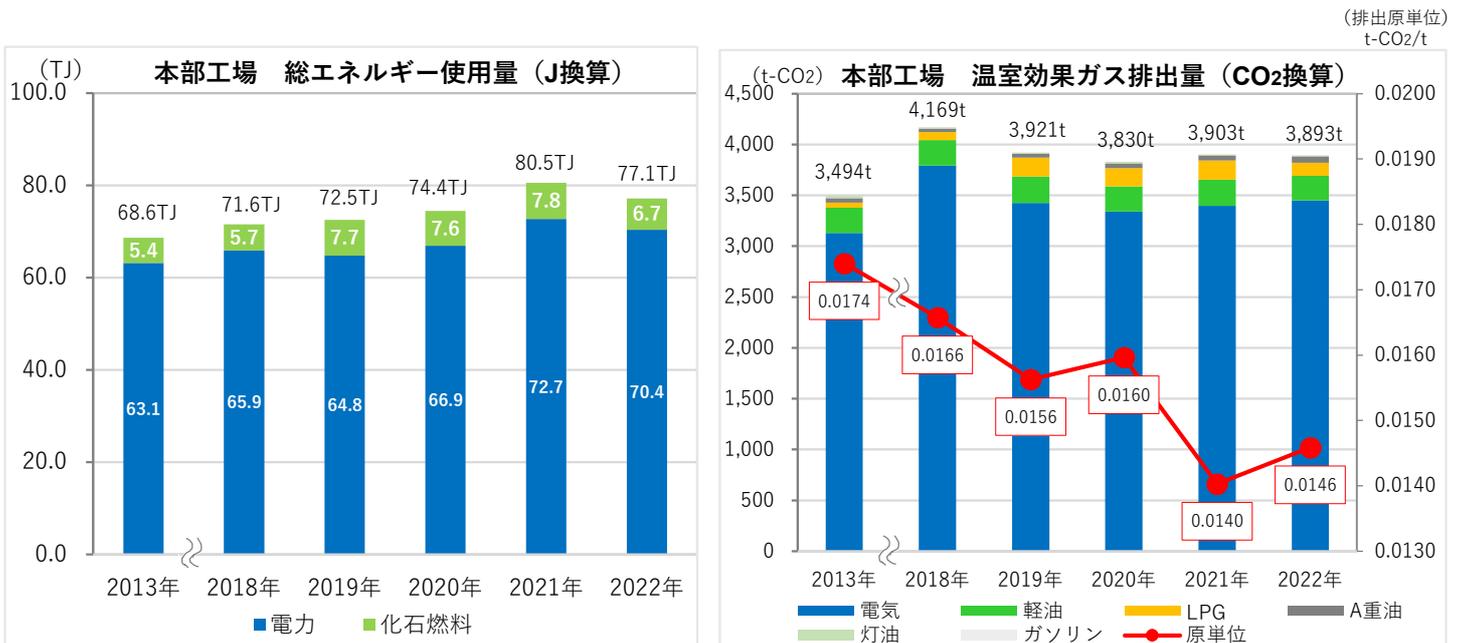


地球温暖化を防止していくために、省エネルギー化の推進、CO2 排出量の削減、新エネルギーの創出がこれらの課題解決のキーであるといえます。環境事業本部でも、エネルギー効率の高い処理技術や機器類の導入、そして太陽光発電やバイオマス発電、廃棄物発電に積極的に取り組んできました。これからも継続的に取り組み、地球温暖化防止に貢献していきたいと考えています。

環境事業本部 本部工場

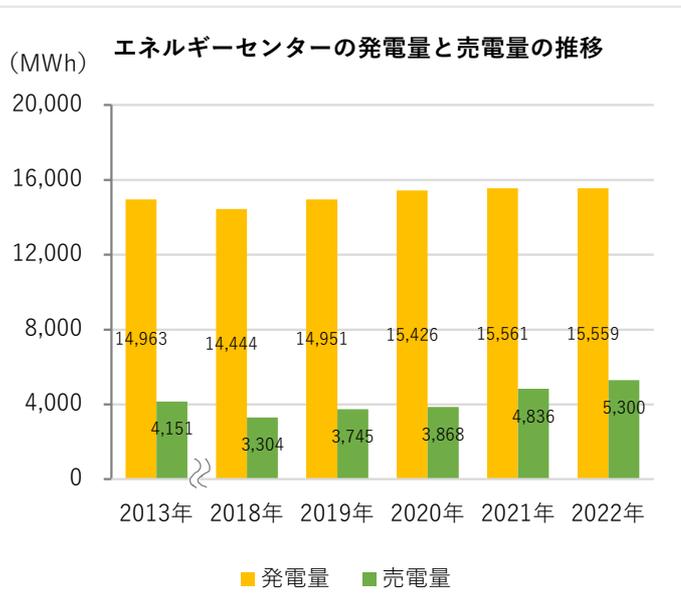
<省エネ活動とCO2排出抑制>

アイザックは、省エネ法に定める「特定事業者」として指定されており、その中で環境事業本部本部工場は第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。本部工場におけるR4年度の総エネルギーの使用量は昨年度対比で4.2%減少し、また、エネルギー使用におけるCO2排出量も昨年度対比で0.3%減少しました。エネルギー使用量については、特に電気使用量（買電分）が減少しており、自家消費型太陽光発電の導入による効果が現れてきています。廃棄物1t当りのCO2排出量原単位については、昨年度対比で4.0%増加しましたが、2013年度以降、減少傾向を示しております。今後も処理の効率化と排出原単位の低減化を目指し、機器類の省エネ化、太陽光発電の自家消費等を積極的に推進していきます。



環境事業本部 エネルギーセンター

エネルギーセンターでは、焼却炉で発生する廃熱をボイラーで回収し、蒸気による発電を行っています。熱回収による発電効率は10%を超え、約6,700世帯に相当する4,000kWを発電。エネルギーセンターの動力として利用し、余剰分は売電されています。売電量は5,300MWhになり、発電に伴うCO2排出量削減効果は約2,600トンにもなります。災害時であっても廃棄物があれば自家発電を行い適正処理を維持することが出来ます。また、自家消費した電力でJ-クレジット（二酸化炭素排出権）を創出しており、CO2オフセットの見える化をしています。現在は、EVの急速充電器も設置しており送迎車として電力利用をしています。



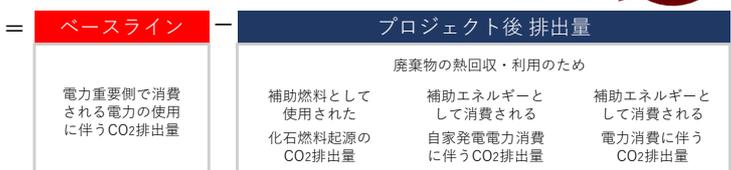
J-クレジットとは？

国（経済産業省、環境省、農林水産省）により運営されているカーボン・オフセット制度。CO2の削減を行い、その行為の妥当性確認や検証を受けることにより、J-クレジットのプロジェクトとして認証を受け、クレジットが発行される制度。



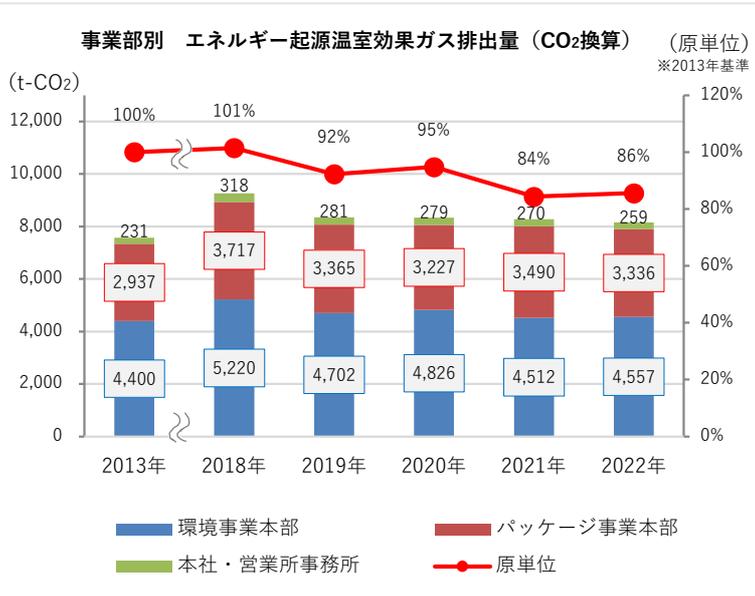
高効率発電
15.6%
4,000kW

J-クレジット (J-VER) 創出量



<エネルギー使用の効率化・省エネの推進>

株式会社アイザックは「特定事業者」として毎年エネルギー使用量から温室効果ガスの排出量や原単位を算出・報告し、効率的なエネルギー使用を推進しています。原単位とはエネルギー使用量を活動量で割った数値で、環境事業本部では廃棄物処理量、パッケージ事業本部では段ボール生産量、本社等では事務所床面積をそれぞれの活動量としています。原単位を小さくしていくことにより、効率的な廃棄物処理、段ボール製造等が実行できていることとなります。アイザックにおけるR4年度の総エネルギー使用量は昨年度対比で3.8%減少し、CO2排出量も昨年度対比で1.4%減少しました。一方、排出量原単位では、昨年度対比2.0%増加する結果となりましたが、直近5年間では減少させており、2013年度対比では14%減少しています。



昨年度対比 エネルギー使用量：3.8%減
CO2排出量：1.4%減
排出量原単位：2.0%増

R4年度における省エネへの取組み

- 環境事業本部：自家消費型太陽光パネル、省エネ型空調設備、電動機更新
- パッケージ事業本部：自家消費型太陽光パネル、ボイラー更新 (A重油→ガス)

今後も省エネ機器類の積極的導入、化石燃料の軽減、自家消費太陽光パネルの設置などを展開していく予定です。

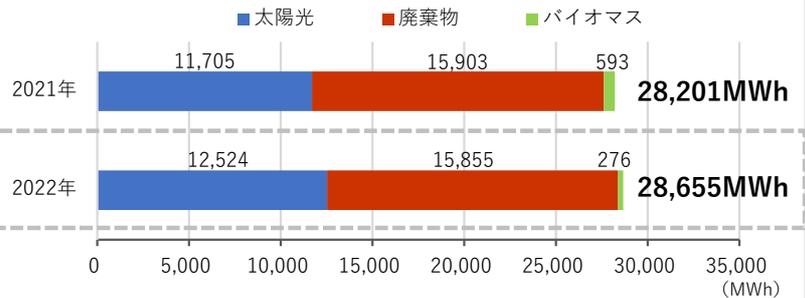


<新エネ・再エネの創出>

アイザックではグループを挙げて新エネ・再エネの創出を推進しています。主な創出源としては太陽光発電であり、R4年度現在では茨城県から兵庫県まで日本各地8施設 (18カ所) に設置し、発電規模は約11MWになりました。このほかエネルギーセンターにおける廃棄物発電や富山グリーンフードリサイクルにおけるバイオマス発電にも取り組んでいます。R4年度に創出した電気量は28,655MWhとなり、その排出削減効果は12,436 t-CO2に及びます。R4年度においては、自家消費型の太陽光発電施設を各所に設置し、環境事業本部では引き続きR5年度にも自家消費型太陽光発電設備の設置を進め、脱水機棟と予備品倉庫の屋上に計画しています。

発電種別	設置事業所	発電能力 (kW)
太陽光	環境事業本部 本部工場	412.80
	LT施設 (自家消費)	200.03
	解体・南保管庫 (自家消費)	163.50
	西日本事業所 (屋根型)	454.35
	西日本事業所 (地上型)	4,464.00
	パッケージ滑川工場	1,001.39
	パッケージ滑川工場 (自家消費)	125.62
	パッケージ野木工場	284.83
	パッケージ野木工場 (自家消費)	165.00
	アイザック・オール 処分場法面 (自家消費)	100.80
	アイザック・オール 処分場跡地	499.48
	アイザック・オール 浄土寺	436.50
	富山グリーンフードリサイクル	388.72
	エコ・マインド	300.00
牛久	2,386.80	
廃棄物	環境事業本部 本部工場 (自家消費)	86.00
	環境事業本部 エネルギーセンター	4,000.00
バイオマス	富山グリーンフードリサイクル	195.00

アイザックグループ 総発電量

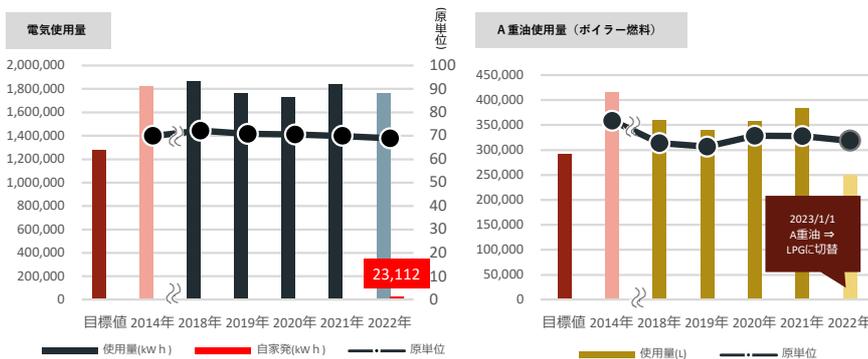


新エネルギー創出による温室効果ガス削減効果

2022年度 12,436t-CO2 (CO2排出係数：0.000434)

アイザックグループ 省エネルギー活動例

パッケージ事業本部滑川工場の省エネ活動



小杉CCの省エネ活動



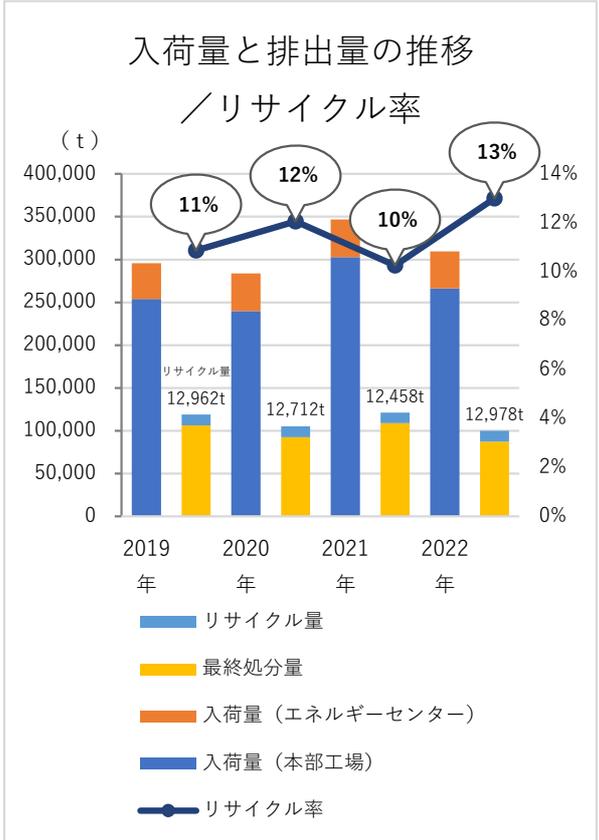
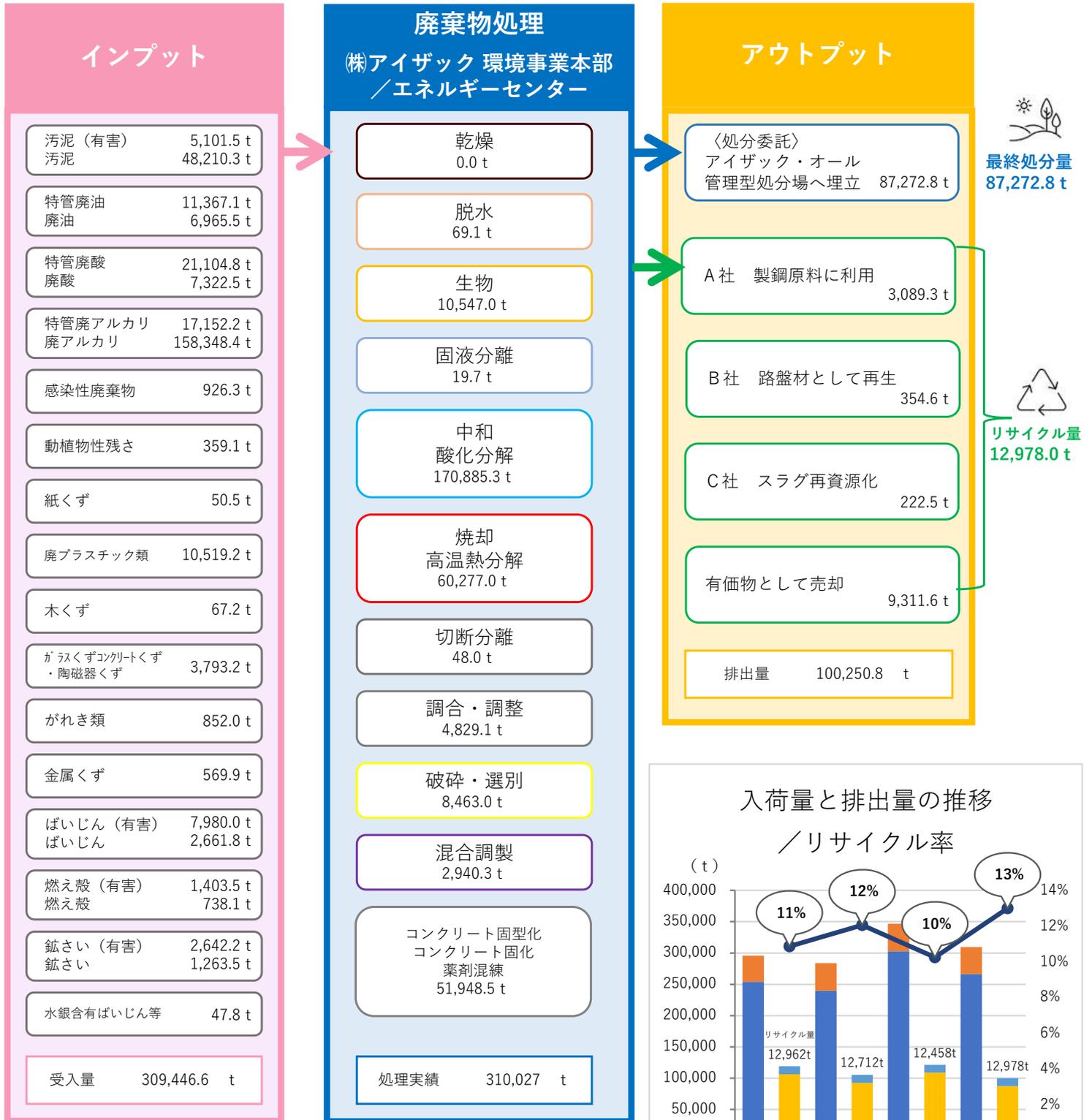
小杉カントリークラブでは施設の利用者数が増加していますが省エネ機器の導入や空調設備の更新により電気使用量は減少しております。

3. 廃棄物の適正処理



環境事業本部では、産業廃棄物処理事業を通して地球環境への負荷低減、地域社会との共存及び排出事業所様への環境価値の還元を目指して事業活動を展開しています。当社は業界屈指の許可品目を有し、多種多様な性状を持つ産業廃棄物を複数の処理施設を複合的に活用して確実に無害化処理します。

< 廃棄物の一連の処理工程(2022.4~2023.3) >



廃棄物処理委託契約書／manifestの電子化率

電子契約 10.4% (228件/2,181件)
電子manifest 45%

前年比 **5.9%** 増加 ※2022.4~2023.3

4. 安心安全の提供



環境事業本部では、地域社会の方々をはじめ、従業員への安全安心、災害・事故防止対策を最重要課題と認識しています。事故防止の徹底、社内への啓蒙により、社員一人一人の安全意識の向上を図り、災害ゼロを目指して取り組んでいます。

安全衛生委員会

環境事業本部では、安全衛生委員会を毎月開催しています。安全衛生委員会では、従業員が安全に作業が行えるよう、労働安全に関する社外研修受講の計画、安全スローガン、安全衛生パトロール、KYTの実施評価、事故・災害の発生と再発防止策などについて、議論しています。

安全衛生パトロール

場内の作業環境において危険な作業や設備環境になっていないかを定期的に巡回し、指摘と改善につなげています。事故災害が発生した場合には、発生原因と発生状況、その後の対応を踏まえて協議し、再発防止対策へと進めます。

リスクアセスメント ヒヤリハット活動

安全衛生委員会では、災害事故防止の観点から、ヒヤリハット活動を推進し、R4年度では118件の指摘があり、改善につなげることができました。また、リスクアセスメントも定期的に行い、R4年度では15件の作業評価を行いました。これらの評価結果は、掲示板にて全従業員に周知され、安全意識の向上に努めています。

5 S 活動

工場内の整理整頓も災害事故防止の基本と考え、5S活動を継続的に行っています。R4年度ではのべ48回パトロールを実施し、適宜改善につなげています。



< 防災訓練・BCP >

各部署においてそれぞれ想定される緊急事態に備えての訓練や、会社全体としての消防訓練等を定期的に行っています。また、アイザックグループでは、自然災害や感染症拡大に備えた事業継続計画（BCP）を策定しています。災害廃棄物への対応を含めて、社会インフラとして早期復旧に貢献していきたいと考えております。



5. 人権の尊重 健康経営の維持



アイザックでは従業員とその家族の心身の健康を重要な経営資源として捉え、いかに生き活きと輝き働くことができるかを意識し、組織的に取り組むことで、個人の生産性向上と会社の持続的成長につなげていきます。

< 健康経営 >

アイザックは、2020年度から4年連続で健康経営優良法人に認定されています。

健康経営取組ポイント

- ① 定期健康診断受診率100%維持と精密検査受診率向上のためのフォロー活動
- ② ストレスチェック受診率向上（R4年度実績：98%）
- ③ 年次有給休暇平均取得率（R4年度実績：71%）
- ④ 人間ドッグやがん検診に対する費用助成
- ⑤ 職場内スポーツ等イベントの推進（実施事例：運動会、ボウリング大会、ソフトボール大会、ゴルフコンペ）
- ⑥ クラブ同好会への支援（ゴルフ、陸上、サッカー、スキーなど同好会への費用助成）
- ⑦ 職場環境・福利厚生施設の充実（レストルームの設置、社員食堂の整備、快適な事務所オフィスづくり）
- ⑧ メンタルヘルス教育（オンライン研修ツール導入、24時間365日受付可能な第三者機関による相談窓口設置）
- ⑨ インフルエンザ予防ワクチン接種助成（職場集団接種の実施や費用助成）



< ハラスメント >

アイザックでは、2006年にセクハラに関する防止規程を制定し、現在ではパワハラ、育児介護休業に対するハラスメントへと対象を拡大させハラスメント防止に努めています。相談窓口を設け、従業員一人ひとりの人権を尊重していきます。

< ライフワークバランス支援 >

アイザックでは、完全週休2日制度を導入し、ライフワークバランスの実現に取り組んでいます。また、従業員の仕事と家庭の両立を支援するために、育児・介護休業規程の充実を図り、必要に応じて取得できるよう配慮しています。男性社員による育児休業の取得も推進しています。（R4年度実績6名）

< 作業環境の改善 >

アイザックでは、作業環境の改善として2022年にワークウエアをミズノ社製へ全面的にリニューアルしました。ミズノ社製ワークウエアはスポーツの分野で培われた、軽量かつ通気性に優れた人間工学に基づいたダイナモーションフィットで体の自由な動きをサポートしてくれます。生地は軽くストレッチ性・速乾性に優れ、快適に作業を行うことが出来ます。



6. 人材育成・ダイバーシティの推進



「社員一人ひとりが自ら能力開発に取り組み、自らの可能性を最大限に発揮することで自己実現を図る」この理念に基づき、新入社員/若手社員/中堅社員/管理職それぞれに合わせた「階層別研修」を実施。また、品質改善やコストダウン、財務分析などのスキルを磨く「専門研修」など、社員育成及びスキルアップの為に豊富な教育研修プログラムを整えています。

教育

従業員への自覚教育としてISO全体教育を年2回実施しており、その他、各部門・部署における手順書教育や技能教育をはじめとした環境教育を実施しています。
また、安全作業のために各技能講習等を505名（外部：68名、社内：437名）が受講しました。



女性の活躍

女性がより活躍できる職場を目指し、育児休業や看護休暇を取得しやすい環境づくりや女性社員の登用・採用を積極的に行っています。また、多様な人材の雇用推進をし、複数の勤務形態・雇用形態の中から自分に相応しい働き方を選択することが可能となっています。



自己啓発

従事している仕事に関する知識や能力を高めたい、仕事のデジタル化が進むなどの職場環境の変化に対応する為にスキルアップしたいという意欲を支援する為、通信教育やオンライン学習ツールを活用しています。



（オンライン学習ツール）
R4年度アクセス数：1,380回
視聴タイトル数：274講座
視聴タイトル例：メンタルヘルスや
コンプライアンスに関わる研修

7. 事業領域拡大

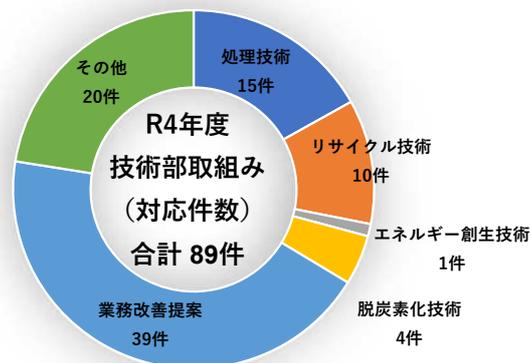


廃棄物処理やリサイクル技術の開発を通して、「今、必要とされるものは何か？」を考え、常に新しいものに挑戦していきます。

技術開発コーナー

技術部では、当社処理施設の排水・排ガス等のモニタリング分析や、金属リサイクルやセメント原料化等の有価物評価を行っています。さらに、幅広い廃棄物に対応できるよう、日々新しい処理・リサイクル技術の研究・開発に取り組んでいます。

特に、技術開発では、安全性、環境への影響、効率、コストなどを考慮し、最適な処理・リサイクル方法の提案を行っています。また、社内の様々な運用管理システムの利便性を向上させるため、汎用のソフトを使用したアプリ開発なども行っており、各署で運用されています。



< R4年度技術部での取組活動の一例 >

廃棄物の有効利用
(リサイクル)

技術部技術開発課
石坂 直也



工場の各処理施設では様々な資材・薬剤を使用しています。従来、「処理」していた廃棄物の中には、「資材」と類似する特性を持つものもありました。これらをその他の廃棄物と組み合わせることで、資材と同等の能力を発揮させる方法を開発しました。資材購入量を減らし、さらに最終処分量の削減にも貢献できました。

分析業務をより安全に
より効率的に推進したい

技術部分析センター
美谷 真結子



分析操作において、目的の成分を抽出する際、「加熱蒸留」を行います。従来、ガスバーナーを用いて1検体ずつ処理行ってきましたが、今回、電気式ヒートブロックに用いた方法を導入しました。この改善により、一度に処理できる検体数は6検体に増加しました。また、温度調節も容易になり、さらに安全に蒸留を行えるようになりました。分析員からもご好評を頂いております。

事業開発コーナー

事業開発課では現在、廃漁網のリサイクル事業立ち上げに注力しております。漁業者の方、行政からも非常に期待を頂いており、景観の美化、不法投棄の抑制、海洋プラスチックの発生防止につながる事業になると考えています。R5年10月の実稼働を予定しております。

時代はコロナ禍から『ウィズコロナ』へと移り、新しい扉を開こうとしている様に思います。廃棄物処理の業界においても、「ただ適正に処理する」社会的認知だけでなく、「脱炭素」「資源循環」を付加したサーキュラーエコノミーが求められています。東日本事業所や西日本事業所においてもこれらの社会情勢や、地域の特性を理解しながら事業化に向けてアクションを起こしていきたいと考えております。



港に保管されている廃漁網

8. 地域・社会との共生



環境事業本部では、地域の住民に安全安心な生活環境の維持を継続的に進めています。コンプライアンス順守への監視・評価を定期的に行うとともに、地域のパトロールや清掃美化、景観整備に積極的に取り組んでいます。

法令順守

環境事業本部では、ISO14001に基づく法令順守評価を定期的に行っており、R4年度も基準超過等の順守逸脱がなく運用を維持することができました。この他、環境関連法規の他、従業員の規律や職場の衛生環境に係る事柄については「コンプライアンス通信」を定期的に配信することにより、従業員の啓蒙に努めています。

No	遵守法令等	対象	本部工場	エネルギーセンター
1	下水道法、富山市下水道条例（排除基準）	下水	1回/月	2回/年
2	環境基本法（環境基準一覧表）	地下水（井戸水）	2回/年	—
3	土壌汚染対策法（汚染土壌基準）	観測井戸	2回/年	4回/年
4	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	汚泥	1回/月	—
5	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	ばいじん	2回/年	2回/年
6	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	燃え殻	—	2回/年
7	大気汚染防止法、富山市公害防止条例	ばい煙発生施設（焼却施設）	1回/2か月	1回/2か月
8	騒音規制法・振動規制法	敷地境界（騒音・振動）	2回/年	2回/年
9	悪臭防止法	敷地境界（特定悪臭物質）	2回/年	2回/年

地域との共生・貢献

環境事業本部及びエネルギーセンターでは、地域社会との共生を意識し、地域とともに発展していくために、地域パトロール、景観清掃美化、工場見学やインターン・講師派遣等の活動を積極的に展開しています。

地域パトロール・地域清掃

環境事業本部では、工場内外における臭気や騒音振動などを従業員の五感によるパトロールを毎日適宜複数回実施し、20年余り続けています。R4年度では延べ1,665回実施し、今後もパトロールとともに工場周辺の清掃活動も継続し、周辺環境の保全に努めていきます。



地域貢献

環境事業本部では、工場などの外観・景観への配慮や緑化など環境整備にも力を入れ、地域との共生を推進しています。本部工場の隣接地に「足湯が楽しめる公園「ピエ・パルク」”とカフェを整備し、近隣住民の皆さまの憩いのスポットとして広くご利用いただいております。



学生への環境教育

環境事業本部では、県内の中学校、高校、大学にインターン受入や講師派遣を通して地域の学生とのコミュニケーションづくりを行っています。R4年度の実績は以下の通りです。

講師派遣

中学：4件、高校：1件、大学：2件

工場見学

高校：1件

短期インターン

実施：12回

人数：67名



グループの地域貢献活動

アイザックグループでは地域社会とのコミュニケーションの重要性を認識し、各グループ企業においても様々な活動を展開しています。

社会科教育活動

社会科教育の一環として、14歳の挑戦や工場見学、インターンシップといった学校からの要望に答えています。

- ①14歳の挑戦、インターンシップ受入
パッケージ事業本部、アイザック・ユー、小杉CC、グランミラージュ、リバーリトリート雅楽倶
- ②工場見学…TGFR、
エコ・マインド、
パッケージ事業本部、
アイザック・ユー



※アイザック・ユー提供写真

地域景観・美化活動

アイザックグループでは地域との調和を大切に、景観整備や清掃活動にも積極的に取り組んでいます。リバーリトリート雅楽倶では、行政との協働事業として春日公園の景観整備を行いました。最終処分場では、法面の緑化に積極的に取り組んでいます。また環境に携わるものとして工場周辺の清掃美化活動を定期的実施しています。



9. アイザックグループ SDGsへの取組み



アイザックグループ SDGs宣言

人々と地域社会、自然と共存する企業市民でありたい

アイザックグループは、様々な事業を通じて、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会全体の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。地域社会・環境・人材の観点から、多様なステークホルダーと力を合わせて、社会の課題解決に取り組み、調和のある持続可能な地域社会の実現に向けてこれからも努めてまいります。

アイザックグループのSDGsの取組は「富山県SDGs宣言」に登録しています。



アイザック紹介ページ
https://www.sdgs-toyama.jp/company/detail/?company_id=294



アイザックグループにおける環境・SDGs活動

SDGsへの取組みはアイザック環境事業本部のみにかかわらず、アイザックグループ全体で各々の事業内容とターゲットとを紐づけし、活動を行っています。取組み内容についてはエネルギー、廃棄物、健康経営、人材育成、地域貢献、BCPと多岐にわたっています。

廃棄物の排出削減

パッケージ事業本部では廃棄物の発生抑制に取り組み、発生原単位の低減に努めています。サービス業ではフードロス削減や分別による再資源化活動を行っています。



脱プラスチック

リバーリトリート雅楽俱、ホテルグランミラージュ、小杉CCでは、お客様に利用いただくアメニティーをバイオマス比率の高いものへの変更やランドリーバッグの無料提供を廃止するなど脱プラへの活動を積極的に推進しています。



アメニティーグッズ



ランドリーバッグ有料化



非プラスチック飲料容器

事業継続計画（BCP）の策定と維持

自然災害や感染症拡大などの「緊急事態」発生時にも速やかに対応し、レジリエントな企業風土を構築していくために、アイザックグループ全体としてBCPを策定し、適宜、グループ各社で災害訓練を行うとともに、定期的な見直しも行っていきます。

この他、環境事業本部K-50ビルは、災害発生時の避難所として富山市に登録しています。



ボランティア活動

アイザックグループでは使用済み切手やペットボトルキャップの回収を行い、国内外の医療支援や生活・福祉支援などに活かされるよう取り組みを始めました。切手の実績はこれからですが、ペットボトルキャップはすでに79kgの回収実績となっています。



今後の展開・まとめ

令和4年度では、環境事業本部が廃棄物に携わる環境事業を開始して50年という節目を迎えました。廃棄物の収集から中間処理・最終処分までをアイザックグループの一貫体制で取り組んできました。安全安心を最優先に地域との調和も大切にしながら操業してきました。近年の廃棄物処理におけるニーズとして適正処理はもちろんのこと、脱炭素・資源循環へ大きくシフトしてきています。環境事業本部の基本方針でもある「社会に必要とされる企業であり続ける」ために、これまでを振り返りつつ、「何が求められているか」を考え、次の50年の第一歩となるよう着実に前進していきたいと考えております。